環境経営レポート2024

共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ

株式会社KDP

対 象 期 間：2024年4月1日～2025年3月31日
発　行　日：2025年6月3日

EXPO2025
大阪ヘルスケアパビリオン
７日間で何と！
145,000人に来場いただきました。
万博出展します

株式会社KDPの経営方針

・共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ

環境事業部

株式会社KDPの環境事業部

～物流の環境変革で持続可能な社会を追求する～

目次

1 はじめに：ページ数記入

環境経営レポートの概要と目的について説明します。

2 経営理念と環境経営の基本方針

当社の理念と環境に対する基本姿勢を紹介します。

3 2024年度の主な成果と課題

昨年度の環境活動の結果と今後の課題を報告します。

4 未来への展望

2030年・2050年目標と新規事業計画を提示します。

ごあいさつ

共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ
世界一愛される会社になる！

- 株式会社KDPは、1992年の創業以来、多くの試練を乗り越えながら成長を続けてまいりました。創業当初はわずか2名の体制でしたが、阪神淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、挑戦を続け、企業としての基盤を築いてきました。

- その過程で「環境経営」の重要性に気付き、2008年にはエコアクション21を取得。持続可能な社会の実現を目指し、環境負荷の低減に努めてまいりました。特に「EcoLEDz事業部」を設立し、高効率LED照明の導入を推進することで、より良い労働環境の提供にも貢献しています。

- また、新たな社会貢献事業として、災害対策商品の開発にも注力しています。ポリウレア樹脂コーティング技術を活用したインフラ整備や、耐震カプセル「Sphere Secure」の開発を進め、災害に強い社会の実現を目指しております。**2025年の大阪・関西万博では「リボーンチャレンジ ヘルスケアパビリオン」に出展し**、当社の技術と理念を世界に発信する予定です。

- 環境経営は、企業の**「社会的責任」**であると同時に、**「新たな価値」**を生み出す原動力です。今後も地域やお客様とともに、持続可能な未来を築くため、挑戦を続けてまいります。

株式会社KDP　代表取締役 会長 **金谷 宏**

代表取締役社長　金谷浩樹

ごあいさつ

- 私たちは、企業としての持続可能性を追求し、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の観点から責任ある経営を実践しています。

【環境（Environment）への取り組み】

- 2008年にエコアクション21（EA21）を取得し、環境経営を推進してまいりました。エネルギー効率の向上やCO_2排出削減を目的に、物流センターのLED化や環境配慮型製品の導入を進めています。

【社会（Social）への貢献】

- 私たちは「社員第一主義」を掲げ、社員とその家族の幸福を追求しながら、社会に貢献することを使命としています。雇用創出や人材育成を通じて働きやすい環境を整備し、防災教育などを通じて地域社会の発展にも寄与しています。誰もが安心して働ける社会の実現を目指し、積極的に取り組んでいます。

【ガバナンス（Governance）の強化】

- KDPでは、コンプライアンスの徹底と経営の透明性を重視し、労務管理や情報セキュリティの強化、公正な取引の推進に取り組んでいます。定期的な社員総会を開催し、社員の意見を経営に反映させることで、すべてのステークホルダーとの信頼関係を築いています。さらに、SDGsやESGの視点を取り入れた長期経営戦略を策定し、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

経営理念

世界一愛される会社になる

株式会社KDPは、「理想の企業を創造する」ことを経営理念として掲げ、
売上や利益の追求だけでなく、**「世界一愛される企業」**を目指します。
これは、顧客、社員、社会から尊敬され、信頼される企業を意味します。

1. 共に歩む（組織づくり）
2. 共に創る（環境づくり）
3. 明日への夢、共に紡ぐ（企業づくり）

三位一体
です！

これら3つの柱を中心に、
株式会社KDPは**「人材の育成、環境保全、企業の持続可能な成長」**を目指し、
社会に価値を提供する企業としての役割を果たしていきます。

組 織 の 概 要

＜認証登録範囲＞

（1）名称及び代表者名

株式会社ＫＤＰ
代表取締役会長　金谷　宏
代表取締役社長　金谷浩樹

（2）所在地

本　　社　　大阪府大阪市港区築港2-1-2第一大阪港ビル4F
南大阪営業所　　大阪府泉佐野市下瓦屋4-2-22第三あさひビル3F
神戸営業所　　兵庫県神戸市中央区港島8-2-110号棟2F

（3）環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者　　代表取締役社長　金谷浩樹　　TEL：090-2282-8631
担当者　　営　業　担　当　坂本祐貴　　TEL：090-3863-7871

（4）事業内容

総合人材サービス及びLED照明機器等の製品開発・提案販売

1.社員第一主義の実践：

1. 全社員とその家族の幸せを追求し、安心して仕事に従事できる環境を提供しています。これには、職場のエコフレンドリーな取り組みや、メンタルヘルスサポートの充実などが含まれます。

2.持続可能な環境づくり：

1. エコフレンドリーなビジネスプラクティスを実施し、持続可能な地球環境の創造を目指しています。例えば、ペーパーレス化やエネルギー効率の高いオフィス機器の使用などが推進されています。

3.透明性と倫理の重視：

1. 経営の透明性を高め、公正で誠実な取引を行うことが重視されています。社員の評価や昇進プロセスにおける明確な基準を設けることで、公正な取り扱いを保証しています。

4.災害に強い未来の構築：

1. 耐震カプセル「Sphere Secure」の開発・普及を通じて、災害に強い社会の実現に貢献しています。大阪関西万博への出展を通じて、最先端技術を披露し、持続可能な未来への貢献を目指しています。

KDPの組織づくりは、社員の幸福、持続可能な環境、透明で倫理的な経営、そして社会貢献を中心に構築されています。これにより、KDPは「世界一愛される会社」を目指し、継続的な成長と社会的責任を果たす企業となることを目指しています。

会社概要（認証登録範囲

項目	内容
設立	平成4年4月（1992年4月）
代表取締役	金谷 宏、金谷 浩樹
資本金	3,300万円

社長です！

所在地

拠点名	住所
本社	〒552-0021 大阪市港区築港2-1-2 第一大阪港ビル4F
南大阪営業所	〒598-0062 大阪府泉佐野市下瓦屋4-2-22（第3あさひビル3F）
神戸営業所	〒650-0045 兵庫県神戸市中央区港島8-2-1（10号棟2階）

事業内容

事業種別	許可番号
一般労働者派遣業	派27-300049
有料職業紹介業	27-ユ-300398

総合人材サービス及びLED照明機器等の製品開発・提案販売

KDPのESG（環境・社会・ガバナンス）の視点からの取り組みを解説します。

環境（Environment）

KDPは2008年（EA21）を取得し、環境経営を推進しています。環境負荷の低減を目指し、エネルギー効率の向上や持続可能な製品開発を実施しています。

社会（ Social ）

KDPは「社員第一主義」を掲げ、従業員とその家族の幸福を追求しながら、社会貢献活動を積極的に展開しています。

ガバナンス（Governance）

KDPは「高潔な企業文化」を掲げ、コンプライアンスの徹底と透明性の高い経営を実践しています。

未来の安全今ここに体験

1. 環境（Environment）

KDPは2008年から「エコアクション21」を取得し、環境経営を推進しています。

(1)EcoLED z 環境配慮型ソリューション

- **LED照明の導入提案**
  - 物流センターや倉庫の環境改善として、旧水銀灯からLED照明に切り替え、電力消費とCO2排出を削減。
- **環境に配慮した設備導入支援**
  - 省エネ機器や再生可能エネルギーの活用に関する提案を実施。

(2) ポリウレア樹脂コーティングを活用した環境保全

- **耐久性と環境負荷低減**
  - ポリウレア樹脂はVOCを排出せず、耐久性が高いためメンテナンスが少なく、環境負荷を減少。自然環境を守る特性も持っている。

(3) 持続可能な防災インフラの開発

- **耐震カプセルの開発と展開**
  - 耐震カプセルを開発し、自然災害から人命を守る。大阪関西万博で展示し、SDGs目標11「住み続けられるまちづくり」を推進。環境に優しい防災技術の普及を促進。

廃校活用した「PPA・植物工場・陸上養殖」アクアポニックス

2. 社会（Social）

(1) 人材育成と働きやすい職場環境提供

1 地元人材を優先採用し、地域と共に成長
シニア・女性・障がい者の雇用を推進し、多様な働き方を実現
2 やりがいある仕事を支援
キャリアアップ研修と福利厚生を充実させ、能力を活かせる職場を提供

(2) 地域社会への貢献と防災

1 災害支援と防災意識の普及
・耐震カプセルを用いた対策の推進。
・自治体や企業と連携し事前防災を実施。
2 教育機関との連携
・学校と協力し防災・環境教育の機会提供。
SDGs目標4「質の高い教育をみんなに」に寄与。

（3）健康と福祉の向上

1 安全な労働環境の実現
・健康診断やメンタルケアの強化。
・フレックス制やリモート勤務でワークライフバランスを重視。

環境経営方針

私たちは、総合人材サービス業のプロフェッショナルとして、また社会の一員としての責任を自覚し、環境経営の一環として地球温暖化対策や地域の環境保全活動に取り組みます。全社員が「自主的かつ積極的」に行動し、環境負荷の低減に向けた継続的な改善を推進します。また、お客様に喜んでいただける商品・サービスを、効率的かつムダなく、最適なタイミングで提供することが、当社の環境対策の重要な柱の一つであると考えています。すべての事業活動において **「自主的かつ積極的」** に環境負荷低減に取り組み、持続可能な未来の実現に貢献します。

制　　定　　日：2008年　6月
改　　定　　日：2024年10月
代表取締役社長：金 谷　浩 樹

環境経営への行動指針

私たちは、「世界一愛される企業」を目指し、環境経営を推進します。

1. **創意工夫による省エネルギー等により二酸化炭素排出量の削減に努めます。**
2. **廃棄ロスをなくす等廃棄物の発生抑制に努めます。**
3. **適正な利用により水使用量の削減に努めます。**
4. **グリーン製品の調達を優先します。**
5. **環境に配慮した製品をお客様にお届けします。**
6. **一人ひとりが成長できる強靭な組織づくりを目指します。**
7. **地域や関係団体の環境活動に積極的に参加します。**
8. **環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。**

環境への取り組み活動

1 Priority SDG ⑧

目標8

働きがいも経済成長も

目標8「働きがいも経済成長も」に注力する理由は、その経営理念と直接関連しています。KDPの経営理念は、「共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ」という3つの柱に基づいています。これらの柱は、人材の育成、環境保全、企業の持続可能な成長を目指し、社会に価値を提供する企業としての役割を果たすことを目指しています 。

2 Priority SDG ⑪

目標11

住み続けられる
まちづくりを

目標11「住み続けられるまちづくりを」に注力する理由は、経営理念における「共に創る（環境づくり）」という部分に深く根ざしています。KDPは、現代の企業が自らのビジネス活動が地球環境に及ぼす影響を深く理解し、対策を講じる責任があると認識しています。気候変動、資源の枯渇、生態系の破壊など、地球環境への負担を軽減することは、将来世代のための持続可能な未来を守る上で不可欠です。

3 Priority SDG ⑬

目標13

気候変動に具体的な
対策を

目標13「気候変動に具体的な対策を」に注力する理由は、その経営理念と戦略的な取り組みにおける環境保全への深いコミットメントから来ています。経営理念の中で、「共に創る（環境づくり）」というセクションは、現代の企業がビジネス活動が地球環境に与える影響を深く理解し、その影響を軽減するための対策を講じる責任を持つことを強調しています。特に、気候変動は、地球規模で最も緊急性の高い環境問題の一つであり、これに対する具体的なアクションは、持続可能な未来を守る上で不可欠です。

①基本情報

項目	内容	環境管理体制 担当者・連絡先	
会社名	株式会社KDP	代表取締役社長　金谷 浩樹	（TEL:090-2282-8631）
代表取締役社長	金谷 浩樹	営　業　担　当　坂本 祐貴	（TEL:090-3863-7871）
事業年度	2024年4月1日～2025年3月31日		
事業内容	総合人材サービス・LED照明及び環境負荷低減製品の販売	売上高	1,169,597千円

②事業所情報

拠点名	所在地	従業員数	延べ床面積（㎡）
本社	大阪府大阪市港区築港2-1-2 第一大阪港ビル4F	29名	343㎡
神戸営業所	兵庫県神戸市中央区港島8-2-110号棟2F	4名	25㎡
南大阪営業所	大阪府泉佐野市下瓦屋4-2-22 第三あさひビル3F	4名	97㎡
請負先各社	株式会社上組・鴻池運輸株式会社・丸協運輸株式会社他	41名	18,391㎡
合計		78名	18,856㎡

SWOT分析

強み (Strengths)

- 改善された自己資本比率（27%）
- 高い収益性（ROE 31.4%）
- 売上高の安定成長
- 万博への戦略的投資
- 物流加工業での専門性
- 大阪港エリアの立地優位性

弱み (Weaknesses)

- 依然として低い利益率（2.76%）
- 高い外注費依存度
- 限定的な事業多角化
- 借入金依存の財務構造
- 人件費上昇圧力
- 小規模企業のスケール制約

機会 (Opportunities)

- 大阪・関西万博による需要拡大
- 物流業界のDX化ニーズ
- ESG経営への転換機会
- インバウンド需要の回復
- 政府系金融機関の支援拡大
- 関西圏の物流ハブ機能強化

脅威 (Threats)

- 金利上昇による借入コスト増
- 物流業界の競争激化
- 人手不足と人件費上昇
- 燃料費・エネルギー価格高騰
- 経済環境の不確実性
- 新興企業の参入

主な環境負荷の実績

項　目	単位	2013年	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素総排出量	kg-CO_2	53,258	24,613	15,979	16,206
化石燃料（Scope1）		42,463	14,079	12,822	13,457
電力（Scope2）		10,795	10,534	3,157	2,749
廃棄物排出量					
一般廃棄物排出量	k g	335.24	1,511	153	182
循環廃棄物排出量	k g	0	0	682	675
水使用量	m^3	－	32,019	21,098	18,894
※電力の二酸化炭素排出係数（調整後）		0.385		本社・南大阪：0318 本社1月より0	0.103 kg-CO2/kWh
		関西電力	関西電力 本社：1月よりコスモでんきに変更	本社：コスモでんき 南大阪：関西電力	本社：コスモでんき 南大阪：関西電力

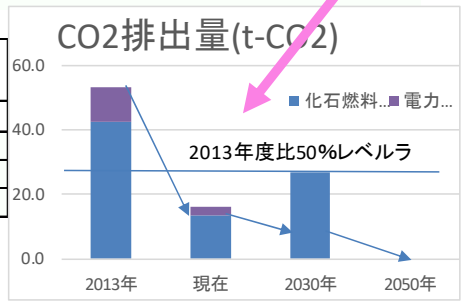
Scope1＝70%削減

Scope2＝71%削減

カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：t-C02

	化石燃料 Scope1	電力 Scope2	対　策
2013年	42.5	10.8	
現在	13.5	2.7	省エネ+EV+再エネ電力
2030年	26.6	0	省エネ+EV+再エネ電力
2050年	0	0	省エネ+EV+再エネ電力



目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、クリーンエネルギーの利用を促進し、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。

KDP

環境経営組織及び役割・責任・権限

更新日： 2022年6月1日

統括責任
必要な経営資源を準備
環境経営方針の策定・見直し
全体の評価と見直し、指示

代表者
会長　金谷宏

内部監査員
舩冨 剛

環境に関する内部監査の実施
代表者への報告

環境に関する実行責任者

環境管理責任者
社長　金谷浩樹

環境事務局
坂本祐貴

環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局
各種帳票の作成・データの取りまとめ
環境経営目標・計画書案の作成
環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境経営レポートの作成、公開

環境経営計画の審議
環境活動実績の確認・評価

環境委員会
柿本

環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施
環境経営目標達成に向けた取組実施
環境関連法規等遵守の取組
緊急事態対応試行訓練の実施・記録
問題点の是正・予防

【本　社】
正：柿本 礼佳
副：森野 英義
竹原

燃料・水道・電気・廃棄物

【南大阪営業所】
正：東口 秀利
副：岡本 朋子

【神戸営業所】
正：塚本　智史
副：野々宮　万里子

全従業員

環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚し、決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営目標及びその実績

COSMOゼロカボソリューション導入

項目 ＼ 年度		2013年（基準値）	2024年（目標）	2024年（実績）	評価	2025年（目標）	2026年（目標）
電力による二酸化炭素	kWh	32,321	31,675	26,706	○	31,028	30,705
	基準年度比		98%	83%		96%	95%
売上高原単位	kWh/千円	0.026	0.025	0.023	○	0.025	0.024
	kg-CO2	10,795	10,579	2,749	○	10,363	10,255
	基準年度比		98%	25%		96%	95%
売上高原単位	kg-CO2/千円	0.009	0.008	0.002	○	0.008	0.008
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO2	42,463	41,614	13,457	○	41,189	40,765
	基準年度比		98%	32%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	53,258	52,193	16,206		51,553	51,020
一般廃棄物の削減	kg	335	312	182	○	312	302
	基準年度比		93%	54%		93%	90%
循環廃棄物の削減	kg	1,081	973	675	○	865	757
	基準年度比		90%	62%		0.8	0.7
水道水の削減	m^3	29,075	27,621	18,894	○	26,749	26,167
	基準年度比	2020年（基準年）	95%	65%		92%	90%
環境に配慮した製品をお客様にお届けします。	行動目標（次項による）						
一人ひとりが成長できる強靭な組織づくりを目指す。	行動目標（次項による）						

総評

全体として、エネルギー消費や廃棄物削減に関しては順調な成果を上げています。

特に、**電力消費量の削減と一般・産業廃棄物の削減**については目標達成または上回る結果となっています。

一方で、**CO_2排出量の一部未達成**が課題として残っており、特に自動車燃料による排出量削減が今後の焦点となるでしょう。

今後の対策

- **再生可能エネルギー導入拡大**（電力由来のCO_2削減）
- **EV・ハイブリッド車の活用強化**（自動車燃料のCO_2削減）
- **生産効率向上・設備の最適化**（売上高原単位のCO_2削減）

このような取り組みを強化することで、2024年以降のさらなる削減が期待できます。

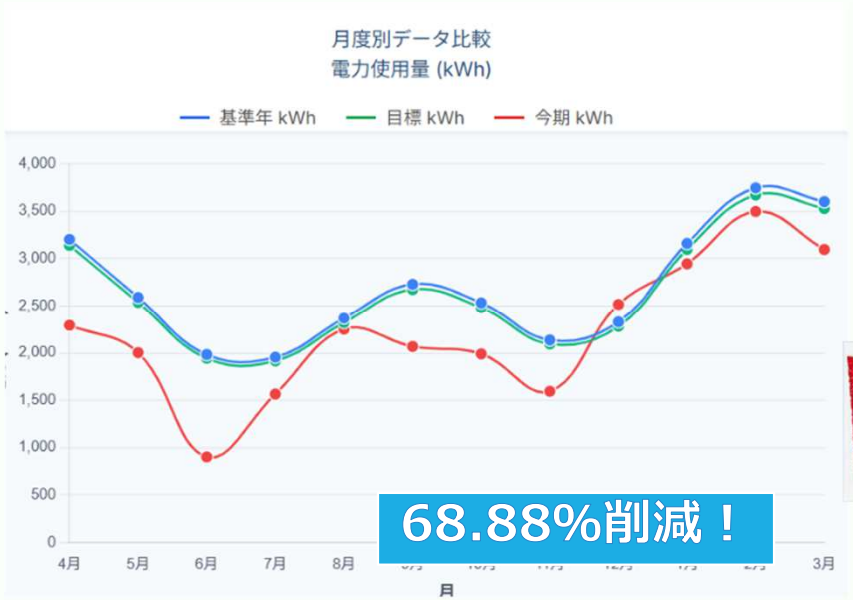
KDP

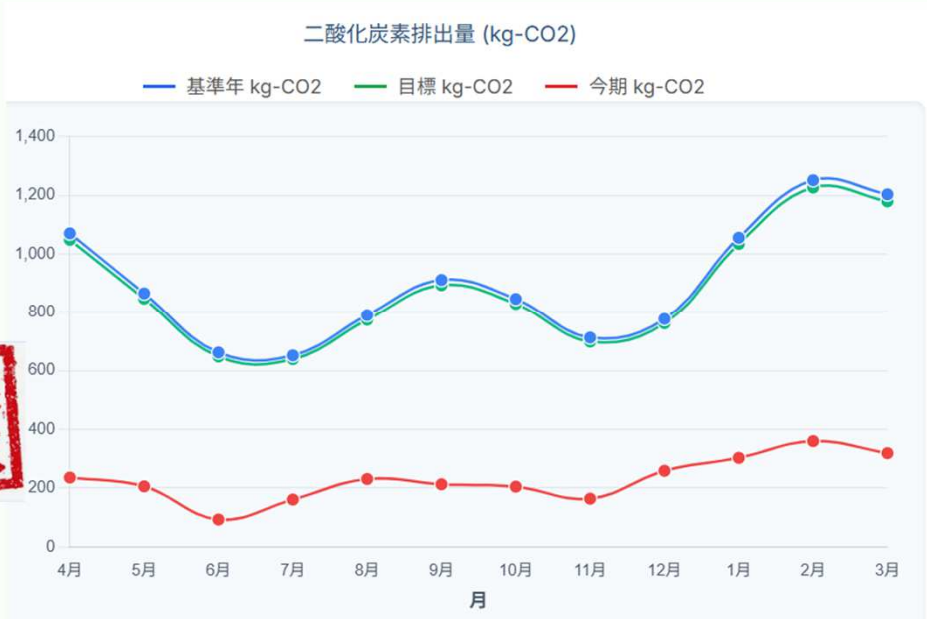
Scope-2 電力

環境経営目標及びその実績

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基準年kWh	3203	2589	1981	1953	2366	2728	2532	2135	2327	3160	3746	3601
目　標kWh	3139	2537	1941	1914	2319	2673	2481	2092	2280	3097	3671	3529
今　期kWh	2291	2001	901	1564	2249	2066	1988	1593	2515	2945	3497	3096

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基準年kg-CO2	1070	865	662	652	790	911	846	713	777	1055	1251	1203
目　標kg-CO2	1048	847	648	639	774	893	829	699	762	1034	1226	1179
今　期kg-CO2	236	206	93	161	231	213	205	164	259	303	360	319

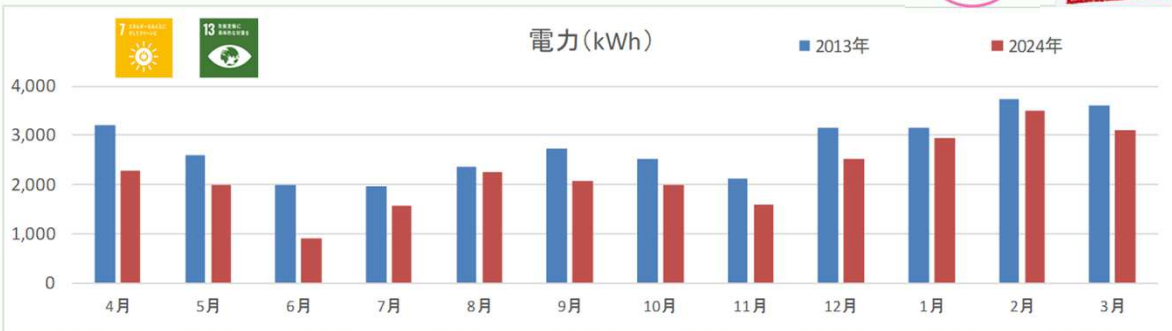




環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の計画

数値目標：〇達成　×未達成
活動：〇よくできた　△あまりできなかった　×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	〇	【成果及び活動】 ・年間残業実績6292時間も削減に成功 （基準年14165.5時間/今期7873.5時間） ・不要な電気の消灯 ・空調の温度管理 上記の成果及び活動を主に目標よりも約75%の削減に成功
原単位目標	〇	
・空調温度の適正化（室温28℃　室温20℃）	〇	
・不要照明の消灯、空調の停止	〇	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	〇	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	3,203	2,589	1,981	1,953	2,366	2,728	2,532	2,135	3,160	3,160	3,746	3,601
2024年	2,291	2,001	901	1,564	2,249	2,066	1,988	1,593	2,515	2,945	3,497	3,096

目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに

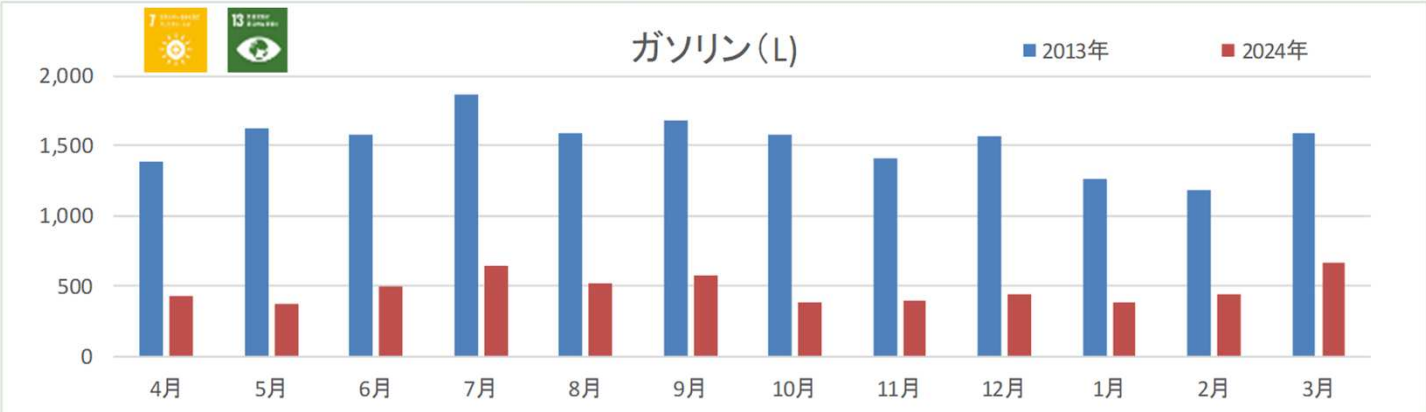
「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、**クリーンエネルギーの利用を促進し**、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を

「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。

❶-2 自動車燃料による二酸化炭素削減　Scope1

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【成果及び活動】 ・EV車や公共交通機関を利用した移動 ・エコドライブの徹底（急発進や急加速などをしない） ・ルートの最適化 社用車を1台追加したが、上記の活動により目標よりも約68%の削減に成功
・エコドライブの浸透	○	
・社用車の運営管理（走行距離・点検・使用頻度など）	○	
・ガソリン代の削減結果チェック（前年比較）	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	1,387	1,626	1,579	1,866	1,586	1,674	1,580	1,407	1,560	1,265	1,186	1,588
2024年	438	381	499	650	526	578	385	400	441	387	448	669

69.77%削減

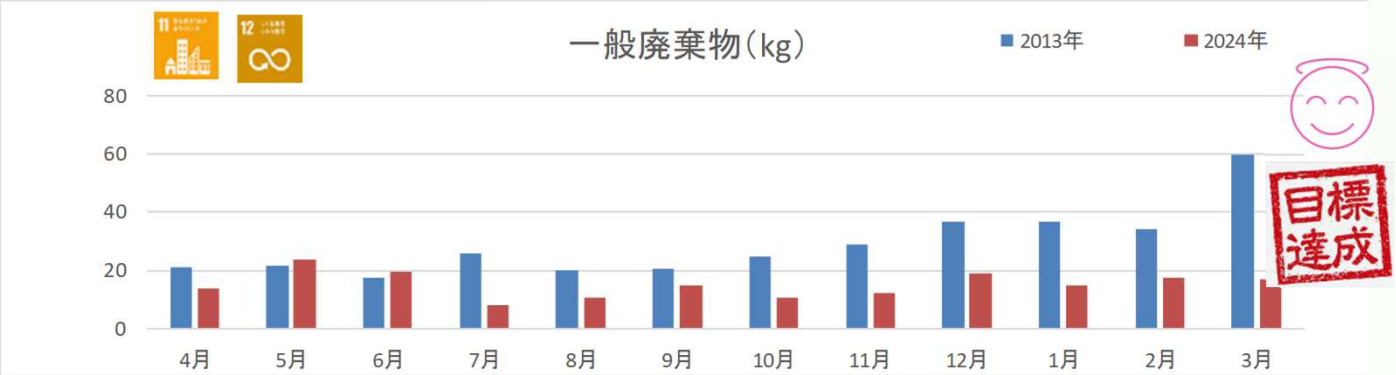
2013年度対比	
• 削減量	29,641kg-Co2
• 削減率	69.77%

目標7：エネルギーをみんなに そしてクリーンに 「すべての人に安価で信頼できる持続可能な近代エネルギーへのアクセスを確保する」ことを目的としています。この目標は、クリーンエネルギーの利用を促進し、エネルギー効率を向上させることで、エネルギーの持続可能な利用を目指しています。

目標13：気候変動に具体的な対策を 「気候変動及びその影響に立ち向かうための緊急対策を講じる」ことを目的としています。この目標は、温室効果ガスの排出削減、気候変動に対する適応、気候変動対策の強化を図ることを目指しています。

❷ 一般廃棄物の削減

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【成果及び活動】 ・3R（買わない！捨てない！持ち込まない！）のスローガンを掲げる ・水筒や弁当の持参 ・ゴミ箱のサイズ縮小、数の減少 上記の項目を意識して、普段ゴミを出さないよう徹底することで、目標よりも約46%の削減に成功
・分別の徹底	○	
・３Rアクション「買わない・捨てない・持ち込まない」	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	21	21	18	26	20	21	25	29	37	37	34	60
2024年	14	24	20	8	11	15	11	12	19	15	17	17

2013年度対比	
• 削減量	319.94ｋｇ
• 削減率	95.43%

目標11：持続可能な都市とコミュニティ 「持続可能な都市とコミュニティを実現する」ことを目的としています。この目標は、安全で強靭な都市と人間の住居を確保し、環境負荷を軽減するために設計されています。具体的には、廃棄物管理、住居の質の向上、公共交通機関の利用促進などを含みます。

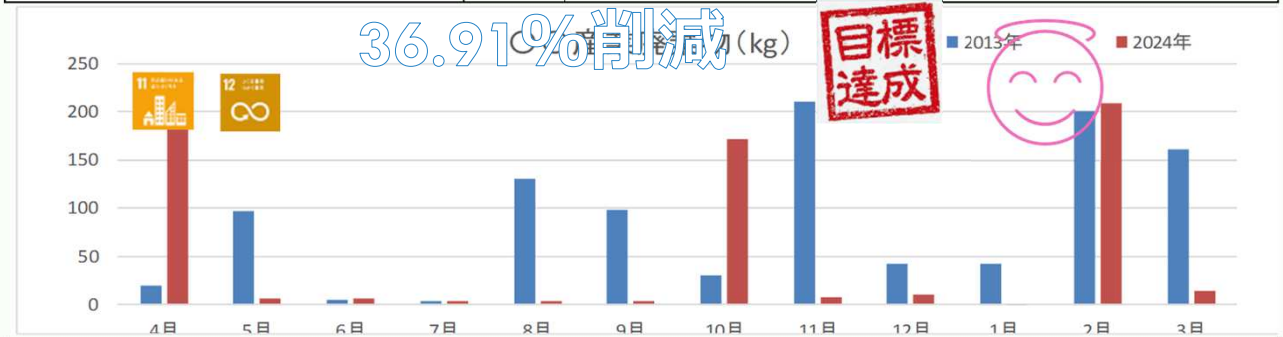
目標12：つくる責任、つかう責任 「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。これには、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及が含まれます。この目標は、自然資源の持続可能な管理と使用、および廃棄物の削減を推進します。

社員の**弁当持参**が増えた！
夫婦の中の良さ！💕

❷-2 循環廃棄物の削減

循環廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【成果及び活動】 ・3R（買わない！捨てない！持ち込まない！）のスローガンを掲げる ・水筒や弁当の持参 ・コピー用紙はPELP（山陽製紙）へ持ち込みアップサイクル 上記の項目を意識づけることで、普段からゴミを出さないようにする。
・機密文書や段ボール箱など紙類は再資源化するため（DSロジ）本社にまとめる	○	
・不要なコピー用紙は手差しに再利用している	○	
・ペットボトル等プラスティック製品は分別して再資源化する	○	

36.91%削減



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2013年	20	98	5	4	130	99	30	210	42	42	202	161
2024年	234	6	7	4	4	3	171	8	11	1	209	15

2020年度対比	
• 削減量	399kg
• 削減率	36.91%

目標12：つくる責任、つかう責任

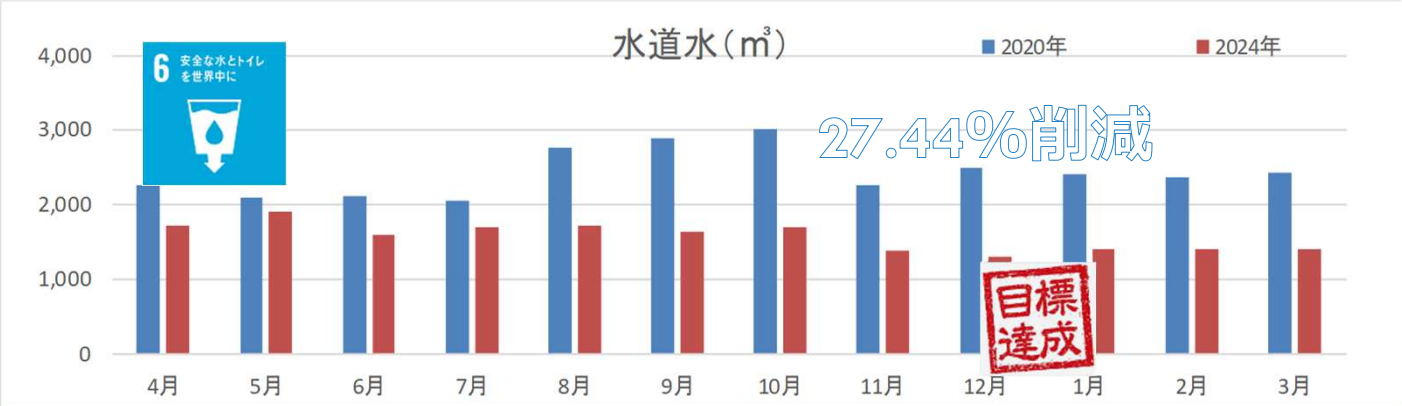
目標12の意味

目標12は「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。この目標は、資源の効率的な使用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及を目指しています。

社員の**弁当持参**が増えた！
夫婦の中の良さ！

③ 水道水の削減

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【成果及び活動】
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	・無駄な流水を防ぐため、ペットボトルで水量を管理
・ペットボトルでの計量	○	・節水シールの貼り付けやポスターの掲示



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	2,259	2,091	2,112	2,044	2,762	2,877	3,010	2,261	2,485	2,403	2,354	2,416
2024年	1,724	1,906	1,592	1,694	1,718	1,640	1,702	1,394	1,302	1,398	1,416	1,408

2020年度対比	
・ 削減量	7,977㎥
・ 削減率	27.44%

目標6：安全な水とトイレを世界中に

目標6は「すべての人に水と衛生へのアクセスを確保し、持続可能な水管理を行うこと」を目的としています。具体的には、安全で利用可能な飲料水を全ての人に提供し、適切な衛生施設と衛生教育を普及させることです。この目標に向けて、以下の取り組みが行われています。

Scope3

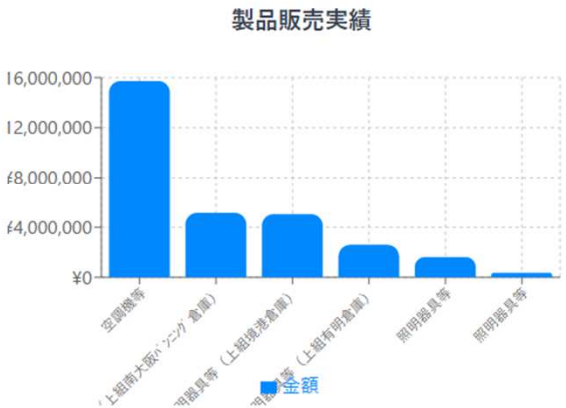
❺ 環境に配慮した製品をお客様にお届けします

２０２４年度EcoLED ｚ事業部実績

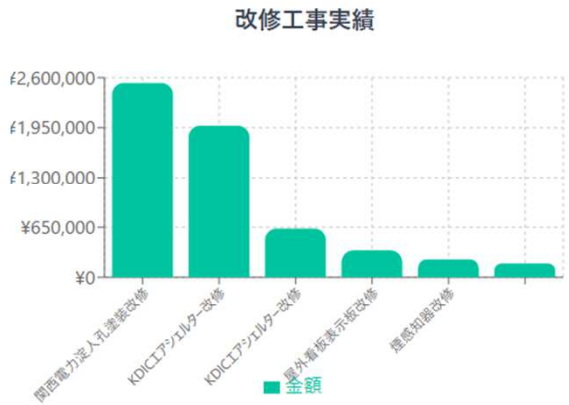
製品販売実績

製品販売実績

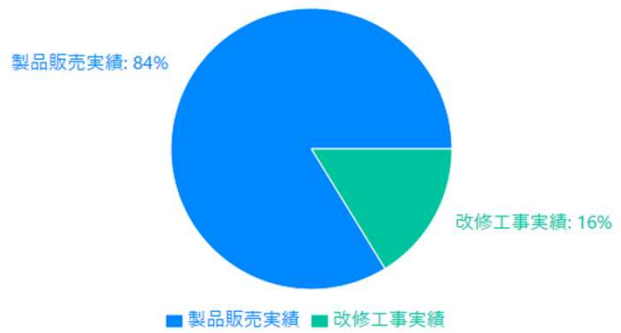
2024年度 株式会社KDP EcoLEDz事業部 売上明細



合計: ¥30,449,964



合計: ¥5,897,600



総売上合計: ¥36,347,564

Scope3

⑤ 環境に配慮した製品をお客様にお届けします

環境に配慮した製品をお客様にお届けし	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・毎月1回社員が環境に関する勉強に取	○	繁忙時も含め毎月1回環境経営MTGの実施
・採用したスタッフに対して環境に配	○	新しく採用した社員にも配慮して基礎からの教育を実施
・環境に配慮した製品の販売、提案	○	

目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう「持続可能な産業化を促進し、**イノベーションの基盤を構築する**」ことを目的としています。この目標は、インフラの整備、産業の多様化と付加価値の向上、技術革新の推進を通じて、持続可能な経済成長を実現することを目指しています。

目標12：つくる責任、つかう責任「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。これには、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能な生活スタイルの普及が含まれます。この目標は、自然資源の持続可能な管理と使用、および廃棄物の削減を推進します。

⑥ 一人ひとりが成長できる強靭な組織づくりを目指す

株式会社KDPの「やりがいのある人づくり」とウエルビーイングについて

1. 一人ひとりが成長できる強靭な組織づくり

株式会社KDPの基本原則の一つである「一人ひとりが成長できる強靭な組織づくり」は、個々の成長が企業全体の強さに直結するという考え方に基づいています。

これは、社員が自己実現を果たしながら、組織全体の持続的な発展を実現するための基盤となります。

✅ **ポイント**

・人材育成の重視

→ 社員一人ひとりがスキルを高め、リーダーシップを発揮できる環境を整備。

・学び続ける文化

→ 研修制度やキャリア開発支援を通じて、社員の成長を支援。

リスキリング

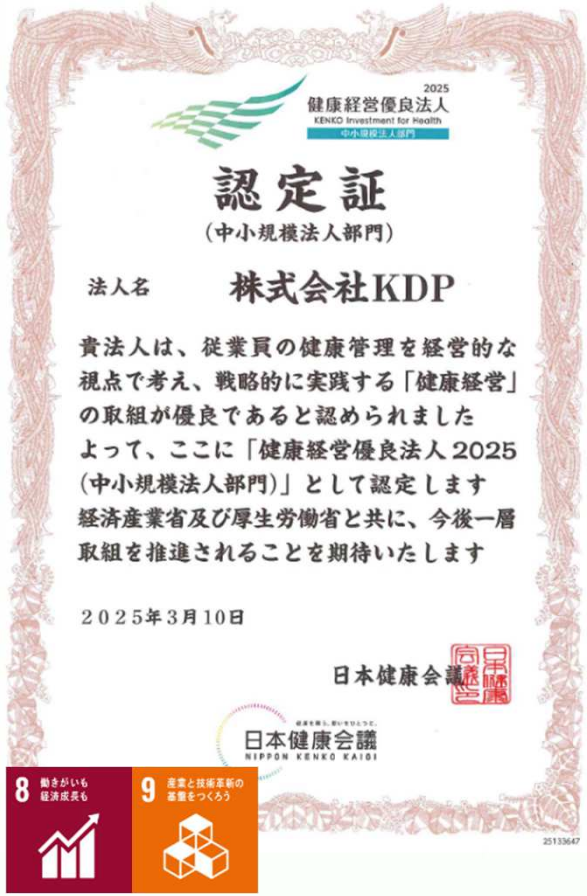
・心理的安全性の確保

→ 意見を自由に言える職場環境を整え、チャレンジしやすい組織に。

・組織の柔軟性と適応力の向上

→ 変化に強い組織を構築し、イノベーションを推進。

これらを通じて、社員の働きがい（エンゲージメント）を高め、長期的な企業成長へとつなげます。



2025
健康経営優良法人
KENKO Investment for Health
中小規模法人部門

認定証
（中小規模法人部門）

法人名　株式会社KDP

貴法人は、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する「健康経営」の取組が優良であると認められました
よって、ここに「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」として認定します
経済産業省及び厚生労働省と共に、今後一層取組を推進されることを期待いたします

2025年3月10日

日本健康会議

日本健康会議
NIPPON KENKO KAIGI

8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう

④ グリーン製品の調達を優先します

Scope1

1. 非化石燃料の調達

- KDPは事業活動全体において **再生可能エネルギーの利用** を推進し、化石燃料への依存を減らす取り組みを進めています。具体的には、 **クリーンエネルギーの全面的な採用** を掲げ、すべてのオペレーションにおいて再生可能エネルギーへの移行を進めています。

2. EV車両やハイブリッド車の購入

- KDPは **社用車のEV化** を進めており、2023年2月に本社でガソリン車1台をEVに切り替えました。
  現在、ガソリン車4台とEV1台を保有しており、今後は **順次EV車両へと切り替えていく計画** を持っています。
- また、今後の目標として **「カーボンフリートランスポート」** を掲げ、企業の車両をすべてEVへ置き換え、交通による環境負荷を最小限に抑える方針を明示しています。

3. 環境に配慮した製品の優先購入

- KDPは **環境負荷の低い製品の導入** を推進しており、例えば **LED照明** への切り替えを進めています。
  これにより、 **事務所の電気使用量を3分の2に削減** することに成功しました。
- さらに、 **持続可能な材料の使用** にも注力しており、 **リサイクル可能な材料を活用** した製品の調達を進めています。

目標12：つくる責任、つかう責任

目標の意味：目標12：つくる責任、つかう責任「持続可能な消費と生産パターンを確保する」ことを目的としています。この目標は、資源の効率的な利用、廃棄物の発生を最小限に抑えること、持続可能なライフスタイルの普及を目指しています。具体的には以下のような点が重要です。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果，並びに違反，訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出
フロン排出抑制法	業務用空調機
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、 冷蔵庫・冷凍庫
顧客要求事項	**環境管理、品質管理**

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去３年間ありませんでした。

法的義務を受ける主な環境関連法規制の遵守

廃棄物処理法、駆音規制法、振動規制法、水質汚濁法など、環境関連法規制の遵守状況を評価し、適切な措置を講じています。
これにより、企業活動が環境に与える影響を最小限に抑え、持続可能な生産と消費パターンを確保します。

関連SDG: 目標12（持続可能な消費と生産）**環境関連法規制等の遵守状況の評価：**環境関連法規制等の遵守状況を定期的に評価し、法的義務を確実に守ることで、企業の環境パフォーマンスを向上させます。これにより、環境への配慮と持続可能な経営を実現します。

関連SDG: 目標12（持続可能な消費と生産）、目標13（気候変動対策）**違反や訴訟の有無：**過去3年間にわたり、環境関連法規制に違反することなく、訴訟も発生していないことから、企業のコンプライアンスと責任ある経営が示されています。これにより、持続可能な社会の実現に寄与します。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定:　火災の発生	
■実施日： 2024/5/20（月）15：00～15:30	■実施場所 第一大阪港ビル　1階
■参加者： 金谷社長、船冨部長、東口所長、北川主任、太田社員、坂本社員、フン社員、大村社員	
■実施内容： ☑通報訓練　☑消火訓練　☑避難訓練 第一大阪港ビルの中にある複数の会社と合同で実施。 避難にかかった時間の計測や、通報の連絡手順などを消防隊の方から教わり、訓練用の消火器を使用し消火訓練を行った。	
■評価：	手順書の変更の必要性 ☑ あり　☐ なし
今回の消防訓練を行い、避難にかかった時間は4分未満。 事前に訓練があるとわかっていたにしては遅い時間であり、 実際だと訓練の避難時間よりもかかるという事を消防隊の方により認識させられた。 また通報訓練もまずは「119番とはどこに電話がつながるのか」という 基礎的なことから、消防隊の実際の火災現場のお話しまで聞くことができ、 参加社員全員の火災に対する意識が向上し、実りのある良い訓練だったと実感した。	
■実施状況の様子	

目標の意味

目標11：住み続けられるまちづくりを 目標11は、「すべての人々に包摂的、安全、強靭かつ持続可能な都市と人間居住を実現する」ことを目的としています。この目標は、都市とコミュニティの強靭性を高め、災害に強いインフラを構築し、持続可能な生活環境を提供することを目指しています。

緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定：　火災の発生

■実施日： 2024/11/13（水） 15:00～15:30　■実施場所 第一大阪港ビル　1階

■参加者： 植本部長・ルックさん・平野係長・金谷さん

■実施内容： ☑通報訓練　☑消火訓練　☑避難訓練

第一大阪港ビルの中にある複数の会社と合同で実施。
避難にかかった時間の計測や、通報の連絡手順などを消防隊の方から教わり、訓練用の消火器を使用し消火訓練を行った。

■評価：　手順書の変更の必要 ☑ あり　☐ なし

前回行われた消防訓練よりも避難時間が早く、優秀という評価をいただいた。実際には1秒という時間が事態を深刻化させる恐れがあるため、慌てずに今回のように実践を心がける。

■実施状況の様子

訓練

•火災の発生を想定した緊急事態対応訓練を実施し、社員が適切な対応を迅速に取れるようにする。これにより、災害時の被害を最小限に抑え、社員の安全を確保します。

安全教育の強化

•定期的に防災訓練や安全教育を実施し、社員の災害対応能力を向上させます。これにより、災害時のリスクを軽減し、職場の安全を確保します。

□外部からの環境上の苦情・要請等

※ビールの詰替作業で外装梱包時に、パッキンケースに破損が生じました。

代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年度の環境評価

2024年度の環境対策は多くの成果を上げ、特に**二酸化炭素排出量の削減**で大きな進展がありました。その他の項目についても全て目標達成です。

主な成果

1.電力使用削減：前年比30%削減、CO_2排出量は29%削減（再生可能エネルギー導入の成果）。

2.自動車燃料削減：EV車「さくら」導入で燃料使用量を30%削減、削減率70%達成。

3.廃棄物削減：335kg→153kg（54%削減）、社内スローガン「買わない！捨てない！持ち込まない！」が効果を発揮。

4.循環資源の活用：マイ箸・マイボトル徹底、コピー用紙のアップサイクルでリサイクル率向上。

5.水使用量削減：基準年度比27%節水。

さらなる環境目標達成に向け、新たな施策と継続的な改善が求められます。

課題の評価

1. 電力による二酸化炭素排出削減

•売上高原単位（0.025 kWh/千円）の目標未達成（実績：0.029 kWh/千円）。

•燃料費高騰の影響が要因の一つと考えられます。

見直しと指示

1. 電力使用量のさらなる削減

•2025年内に南大阪営業所オフィスの太陽光発電システム導入を検討する。

•エネルギー効率の高い設備への投資を加速し、2025年までにLED照明の完全導入。

2. 自動車燃料の更なる効率化

•2025年までにEV車両・ハイブリッド車両の導入率を50%まで引き上げる。

•社内での最適ルート分析を実施し、移動効率を向上させる。

3. 一般廃棄物と循環資源物の削減

•社内リサイクルキャンペーンを定期的に実施し、社員の意識向上を図る。

•オフィス内でのペーパーレス化を推進し、2025年までに紙使用量を50%削減する。

4. 水道水の使用量削減

•水使用量のモニタリング強化を図り、月次の水使用レポートを作成・共有する。

•社員向けの節水教育を2024年下半期から開始し、水資源の重要性を社内で浸透させる。

実施日：２０２５年６月２日

会長:金谷　宏

1 電力の削減

主な取り組み～CO2削減～

1. CO2排出量ゼロの実現

•当社は、環境への責任を果たすため、「コスモ・ゼロカボソリューション」へ方針を転換。

•その結果、**2023年2月にCO2排出量を完全ゼロ**にすることに成功。

（コスモゼロカーボンの実現）

2. 電気使用量の削減

•事務所の照明を**2024年3月までに全面LED化**。

•その結果、電気使用量を**3分の2に削減**。

3. 南大阪営業所のLED照明導入と労働環境改善

•**2022年6月にLED照明へ切り替え完了**。

•労働環境の改善にも努め、前年と比較して**KDP全体で残業時間を1,509時間削減**。

4. 電気自動車（EV）への移行

•社用車にEV車「さくら」を導入し、燃料消費を大幅削減。

•今後は**電気自動車（EV）およびプラグインハイブリッド車（PHV）への完全移行**を計画中。

みんなで節電ＡＣＴＩＯＮ

社用車のEV化は、
Scope 1（直接排出）に該当。

みんなで燃費ＡＣＴＩＯＮ

1 燃料の削減

Scope1

主な取り組み
～CO2削減～

みんなで燃費ＡＣＴＩＯＮ！

2023年2月に本社で社用車1台（ガソリン車）をEV車両に切り替え大幅にCO2を削減しましたた。

現在、弊社の車両はガソリン車4台とEV1台を有していますが、将来的には順次電気自動車への切り替えを予定しています。

② 廃棄物の削減

Scope 3カテゴリ5：廃棄物の処理

マイ箸・マイ弁当・マイボトル

主な取り組み
～プラごみ削減～

Scope3

買わない・捨てない・持ち込まない

- 弊社では入社した社員に水筒をプレゼントすることで、ペットボトルなど廃棄物を出さないよう社員1人1人が心がけている。
- また社員のほとんどがお弁当、マイ箸を持参することで不要な廃棄物は出さないよう心掛けている。

Scope 3の「カテゴリ5：廃棄物の処理」

Scope3

環境美化活動

会社周辺の清掃活動は、2008年の女子社員の一言から始まり、今年で16年目を迎えました。当初は小さな一歩でしたが、この継続した努力により、現在では周辺エリアからポイ捨てゴミがなくなるほど環境が改善されました。

ただし、まだ課題は残っており、これを地域全体の運動へと発展させるためには、近隣企業との連携が必要です。

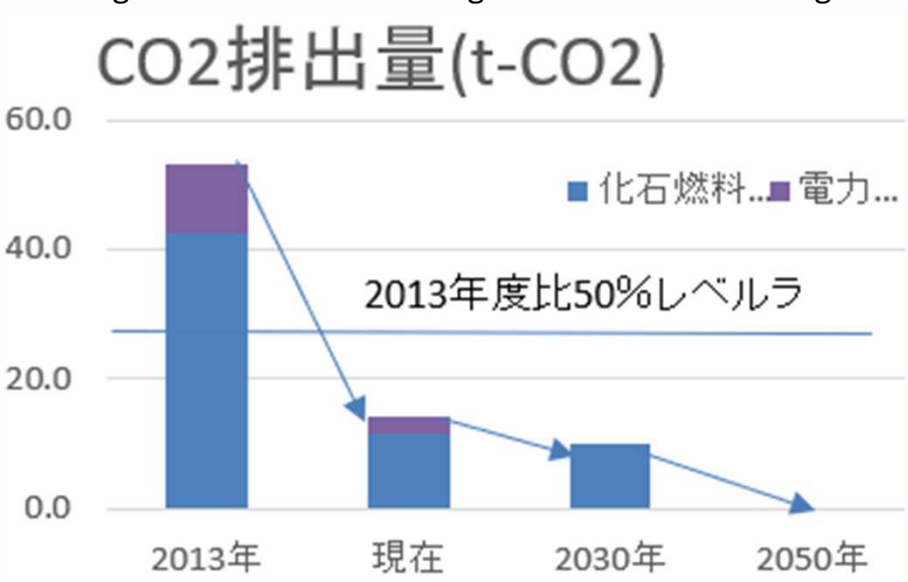
Scope 1, 2, 3のすべてに影響を与える包括的な戦略です

進捗状況の測定

- 株式会社KDPは、2050年カーボンニュートラル実現に向け、2030年までに2013年比で温室効果ガスを46%削減し、さらに50%削減を目指す国の方針に沿った取り組みを進めています。
- これには、エコフレンドリーなビジネスプラクティスの実施、リソースの効率的な利用、再生可能エネルギーの活用が含まれます。KDPは、カーボンニュートラルへの挑戦を産業構造と経済社会の変革、そして成長機会と捉えており、環境と社会への貢献を目指しています。

CO2排出量

２０１３年度実績	２０２４年度実績	２０３０年度目標
53258g-CO2	14242kg-CO2	10000kg-CO2



1081g-CO2	671kg-CO2	

Next Steps

1. **気候変動対策**: 多発する災害に対する耐性強化。
2. **耐震・シェルターの整備**: 地震発生時の安全な避難場所の提供。
3. **耐震カプセルの開発**: 個人が災害時に利用できる保護装置の開発。
4. **防災製品の開発と販売**: 災害発生時に役立つ製品の市場への投入。

01 クリーンエネルギーの全面的採用

すべてのオペレーションにおいて、再生可能エネルギーへの移行を進めます。

02 カーボンフリートランスポート

カーボンフリートランスポート：企業の車両をEVに置き換え、交通による環境への影響を最小限に抑えます。。

03 ゼロウェイストへの取り組み

廃棄物の削減と循環利用を推進し、生産から廃棄までのサイクルにおける無駄をなくします。

04 海洋保護の強化：

プラスチック廃棄物を減らし、海洋汚染を防止します。

05 耐震技術の革新と普及

耐震カプセルやシェルターを開発し、広く配布することで、災害時の安全を確保します。

06 防災製品の研究開発

効果的な防災製品を市場に提供し、災害対策の基盤を強化します。

「未来への安全、

今ここに体験

SPHERE SECURE」

- テーマ: 未来への一歩：
耐震カプセルとリボーンチャレンジ

OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025

Osaka
Healthcare
Pavilion
Nest for Reborn

体験しに来てね！

３００社以上からベス
ト５に選ばれました！
EXPO2025
いのち輝く未来社会のデザイン
(Designing Future Society for Our Lives)

大阪府内の小中学校生を対象に
配布される防災パンフレットに
採用されました。

名古屋市との公民連携

通信カラオケDAMとの連携

ＫＤＰのNext Steps（Beyond 2025）

目標

1. 2025年大阪関西万博での発信

1.1. 耐震カプセル「Sphere Secure」のグローバル展開

1.2. フェーズフリーの概念を世界に発信

1.3. VR・ARを活用した体験ブースの設置

2. Beyond 2025: 廃校活用プロジェクトの公民連携

2.1. 公民連携の推進（八郎潟・名古屋市総務局との協力）

2.2. 廃校を地域防災ハブへ転換

2.3. PPA（Power Purchase Agreement）を活用したエネルギー自給自足

2.4. 空き校舎の陸上養殖事業＆植物工場＆アクアポニックス

4. 新たな事業展開（Beyond 2025）

4.1. 災害時の「フェーズフリー」シェルター事業

4.2. 「Sphere Secure」の海外展開（地震・台風リスクの高い国との連携）

4.3. 公共施設（学校・病院・企業）への「フェーズフリー防災シェルター」導入

4.4. 防災＋エネルギー＋食の統合モデルの確立

5. まとめ

5.1. 2025年大阪万博での耐震カプセル「Sphere Secure」ビジョンの発信

5.2. Beyond 2025の公民連携と持続可能な地域モデルの構築

5.3. SDGsに沿った環境経営と海外展開

名古屋市との公民連携による廃校利活用プロジェクト

少子化による廃校の増加問題に対し、**PPA**を活用した画期的な解決策をご提案します。
太陽光発電、植物工場、陸上養殖を組み合わせた複合施設で、地域活性化と環境問題に貢献します。

廃校ビジネス

背景：廃校利活用の重要性

市場規模

名古屋市における廃校利活用の市場規模を具体的に示すデータは限られていますが、
全国的な傾向を参考にすると、以下のような要素が市場規模に影響を与えています。

廃校数: 日本全体で8,850校以上が廃校となっており、名古屋市でも同様の傾向が見られます。

用途の多様性: 廃校は文化施設、研究スペース、コミュニティセンター、
商業施設など多様な用途に転用されています。

PPPの活用: 名古屋市では、旧那古野小学校のように、
廃校を活用したプロジェクトが公募型プロポーザルを通じて進められています。
これにより、民間企業が積極的に参入し、経済的な波及効果が期待されています。

水耕栽培事業の概要と特徴

ダイワハウスとの連携！→

この画像は、**GGサプライ**が展開する水耕栽培事業について紹介しています。エネアグリと提携し、最新の植物工場を展開しており、**持続可能な食料供給システムを都市部に導入**する取り組みを行っています。

✅ ライノジャパンのポリウレア技術

- **ポリウレア技術**を活用し、**低コストで高品質な植物工場を提供。**
- 初期投資を抑えながら、高効率な水耕栽培環境を実現。

✅ 都市型水耕栽培の導入

- 画像にあるように、**書店（蔦屋書店）や商業施設（無印良品）に水耕栽培システムを設置。**
- 店舗で直接野菜を生産し、新鮮な状態で消費者に提供可能。
- **「調達物流ゼロ・排出ゼロ・CO_2も現地調達」**というビジネスモデル

✅ 商業施設での展開

- **リッツ・カールトン、無印良品、蔦屋書店**と提携し、**新しい形の都市農業を実現。**
- 店舗の一角に設置された水耕栽培システムで、新鮮な野菜を提供しながら、消費者に環境負荷の低い食の選択肢を提供。

結論

達成した！

- 私たち株式会社KDPは、2030年までに温室効果ガスを半減させる「カーボンハーフ」を目標とし、2050年の「カーボンニュートラル」実現に向けた継続的な取り組みを新たに決意します。
- 更に、2025年の大阪関西万博では、持続可能な未来への貢献として、私たちの革新的な耐震カプセルを世界に向けて発信し、災害対策の一環としての社会的価値を提案します。
- これらの取組を通じ、KDPは環境と社会の調和を図る企業として、責任ある行動を果たして参ります。

目標13: 気候変動に具体的な対策を

この目標は、気候変動とその影響に対処するための緊急対策を求めています。
株式会社KDPの「カーボンハーフ」目標（2030年までに温室効果ガスを半減）と
「カーボンニュートラル」目標（2050年までに実現）は、このSDGsの目標と直接的に関連しています。

海洋保護の強化

プラスチック廃棄物を減らし、海洋汚染を防止します。

耐震技術の革新と普及

耐震カプセルやシェルターを開発し、広く配布することで、災害時の安全を確保します。

防災製品の研究開発

効果的な防災製品を市場に提供し、災害対策の基盤を強化します。

KDPは、2030年カーボンハーフ、2050年カーボンニュートラルを達成へ向けて邁進します。2025年大阪関西万博での耐震カプセル発信を通じ、地球と社会に優しい未来への責任を果たします。

環境への確かな一歩

2024年度、株式会社KDPは環境負荷低減において大きな成果を達成しました。特にCO2排出量の大幅な削減は、私たちの持続可能な未来への強い意志の表れです。このインフォグラフィックでは、私たちの取り組みと成果を詳しくご紹介します。

2050年カーボンニュートラルへの道

2024年 → 2030年 → 2050年

現在地: 確かな実績

CO2排出量約70%削減を達成。EV導入、再エネ転換など、具体的な行動が結果に繋がっています。

中間目標: カーボンハーフ

太陽光発電の導入拡大、EV・HV導入率50%達成、ペーパーレス化50%削減など、さらなる施策で目標達成を目指します。

最終目標: カーボンニュートラル

事業活動全体でCO2排出量ゼロを実現。持続可能な社会の実現に向け、挑戦を続けます。

© 2025 KDP Co., Ltd. 世界一愛される会社になる。

CO2排出量の大幅削減：2013年度比

69.6%
総排出量 削減
(53,258kg → 16,206kg)

68.3%
Scope1 (化石燃料) 削減
(42,463kg → 13,457kg)

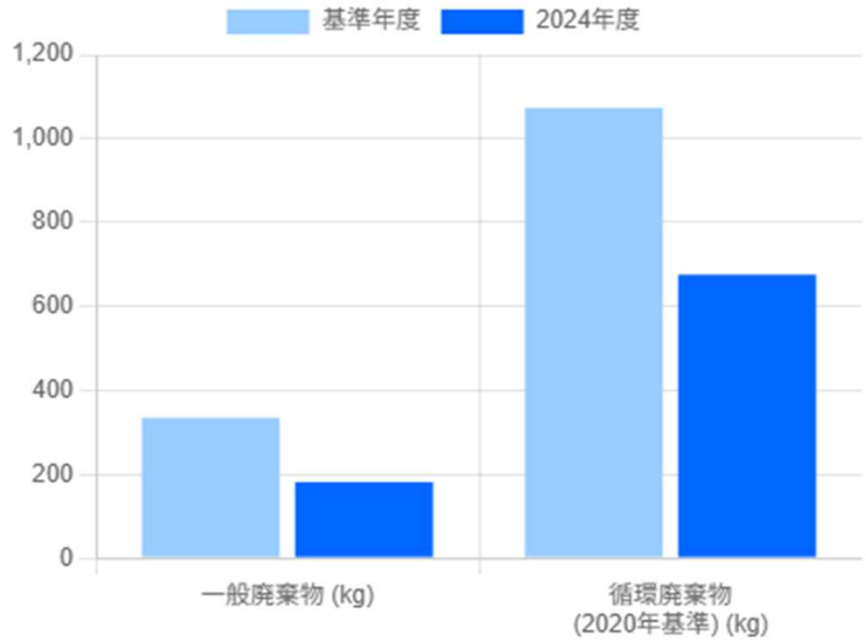
74.5%
Scope2 (電力) 削減
(10,795kg → 2,749kg)

EV車の導入やエコドライブの徹底(Scope1)、そして再生可能エネルギーへの転換(Scope2)が、この驚異的な削減率を実現しました。

2013年からのCO2排出量の推移と、2030年・2050年の目標を示しています。着実な削減が未来のカーボンニュートラルへと繋がります。

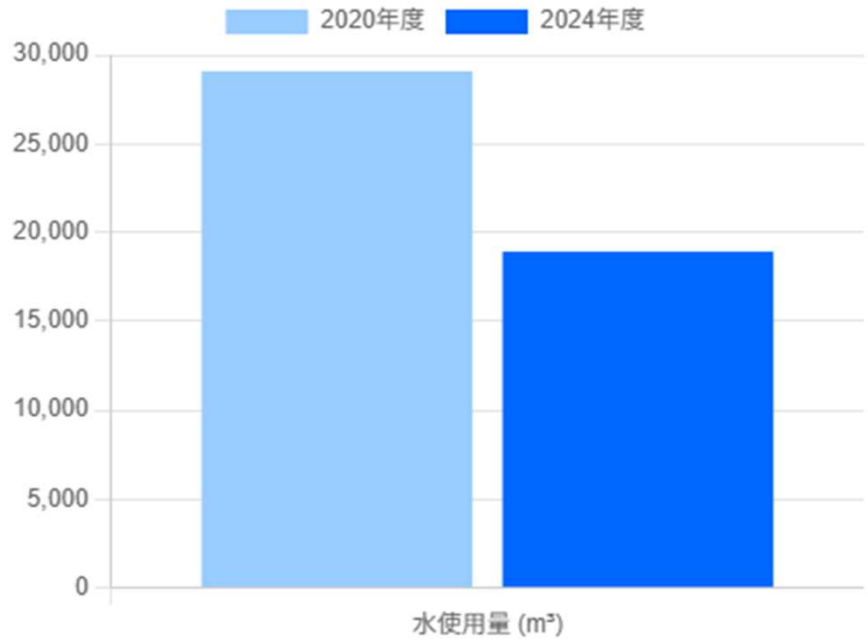
50

廃棄物排出量の削減



「買わない！捨てない！持ち込まない！」のスローガンの下、全社的な取り組みにより一般廃棄物を45.7%削減。また、コピー用紙のアップサイクル等で循環型社会に貢献しています。

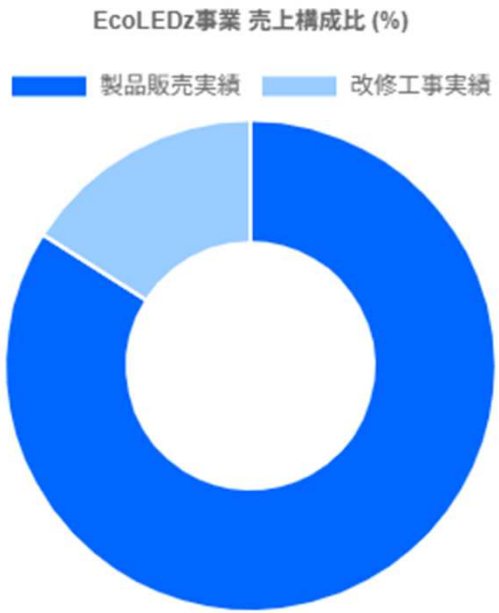
水使用量の削減



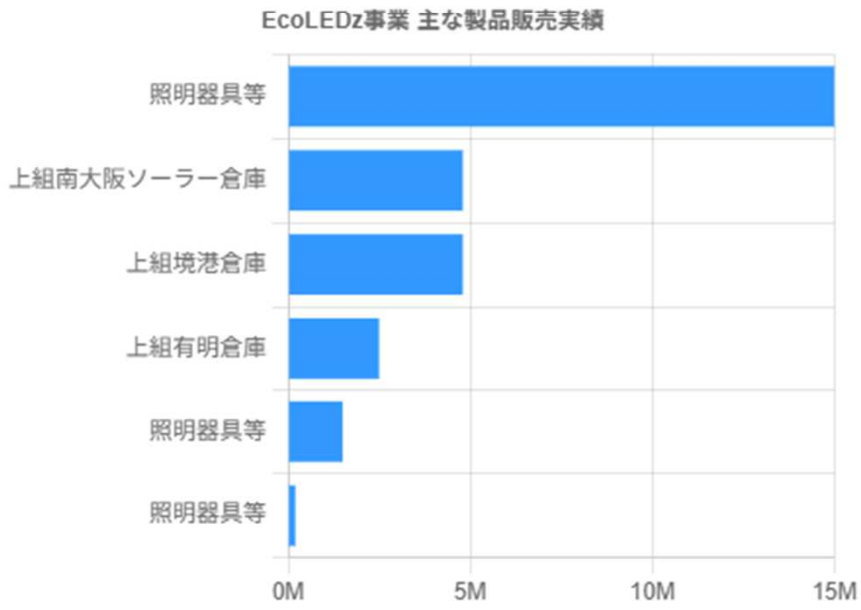
節水意識の徹底により、2020年度比で水使用量を35.0%削減しました。限りある資源を大切に使う文化が根付いています。

事業を通じた環境貢献 (EcoLEDz事業)

当社のEcoLEDz事業は、お客様への環境配慮型製品の提供を通じて、サプライチェーン全体での環境負荷低減(Scope3)に貢献しています。2024年度の総売上は36,347,564円に達しました。



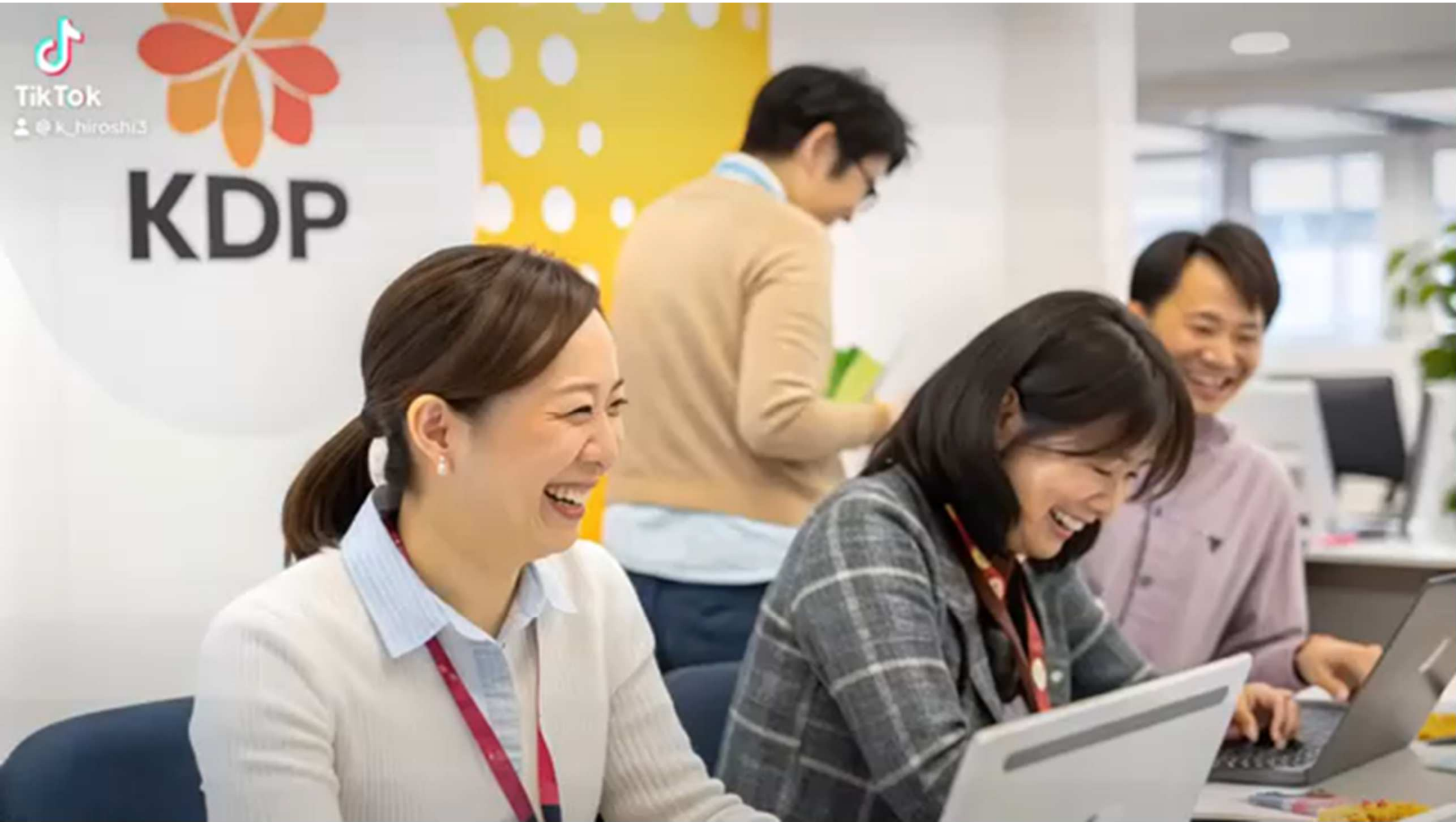
売上の84%を占める製品販売が、環境貢献の大きな柱です。



省電力な照明器具等の販売が、お客様のCO2排出量削減を直接的に支援しています。

編集後記

この「環境経営レポート2024：要約と評価」を通じて、株式会社KDPが環境経営において達成した目覚ましい成果と、未来に向けた揺るぎないコミットメントをお伝えできたことを大変嬉しく思います。特に、CO2排出量の約7割削減という数値は、単なる目標達成に留まらず、全社員が一体となって環境負荷低減に取り組んだ証であり、その努力に深く敬意を表します。EV車の導入、再生可能エネルギーへの転換、そして日々の業務における節水や廃棄物削減の徹底は、持続可能な社会の実現に向けたKDPの真摯な姿勢を明確に示しています。また、EcoLEDz事業を通じた環境貢献や、「健康経営優良法人」認定に象徴される強靭な組織づくり、さらには耐震カプセル「Sphere Secure」の開発・普及といった地域貢献・防災への取り組みは、経済的価値と社会的価値の両立を目指すKDPの経営理念「共に歩む、共に創る、明日への夢、共に紡ぐ」が着実に実践されていることを物語っています。もちろん、自動車燃料由来のCO2排出量やScope3排出量の可視化など、今後の課題も明確になっています。しかし、これらの課題に対し、KDPが具体的な改善策と明確な目標を設定していることは、さらなる成長への期待を抱かせます。2025年の大阪・関西万博での「Sphere Secure」の発信は、KDPの革新的な技術と環境への想いを世界に伝える絶好の機会となるでしょう。このレポートが、皆様にとってKDPの環境経営への理解を深める一助となり、共に持続可能な未来を創造していくきっかけとなれば幸いです。


TikTok
@k_hiroshi3
KDP